

Poster | 心不全・心移植

Poster (I-P08)

Chair: Takahiro Shindo (Department of Pediatrics, University of Tokyo Hospital)

Fri. Jul 7, 2017 6:00 PM - 7:00 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:00 PM - 7:00 PM

[I-P08-02] 当院における EXCOR 装着後心不全の経験

○進藤 考洋¹, 平田 康隆², 白神 一博¹, 朝海 廣子¹, 平田 陽一郎¹, 犬塚 亮¹, 岩瀬 友幸², 高岡 哲弘², 益澤 明広², 小野 稔² (1. 東京大学医学部附属病院 小児科, 2. 東京大学医学部附属病院 心臓外科)

Keywords: EXCOR, 心室補助装置, 心不全

【背景】小児用心室補助装置である EXCOR の実施施設が増え、国内での経験が増加するとともに、長期化する装着期間中の心不全管理に難渋する症例もある。【目的】当院で経験した EXCOR 装着後に生じた心不全症例について、その病態を考察する。【方法】EXCOR を装着した 7 症例の診療録から、装着時年齢、観察期間、ポンプサイズ、装着前の心臓超音波検査所見、装着後の臨床症状・経過、胸部単純 X 線撮影所見、心臓超音波検査所見を抽出した。【結果】症例数 7 例（女性 5 例）で原疾患は拡張型心筋症 5 例、劇症型心筋炎後 1 例、左室心筋緻密化障害 1 例。平均装着時年齢 3 歳 6 ヶ月（2 ヶ月～13 歳 2 ヶ月、中央値 1 歳 3 ヶ月）。平均観察期間 12 ヶ月（1～26 ヶ月、5 ヶ月）。装着後に肺鬱血を来した症例は 2 例、ポンプのフィリング不良を来しやすい症例が 1 例あった。【考察】左心室補助を行っても右心不全を生じることがあり、そのような症例では両心室補助やカテコラミンを要する場合もあることが知られている。当院では重度の三尖弁逆流を伴う症例においてしばしばポンプのフィリング不良を起こしており、利尿剤の減量およびポンプ拍出回数の調整で対応しているが、カテコラミンなどの治療は要していない。肺鬱血を来した 2 症例においてポンプ回数増加やサイズ変更、利尿剤の増量を要した。これらの症例では心臓超音波検査上、他の症例に比して装着後の僧帽弁逆流が重症であり、左室拡大とともに進行性の経過を示した。EXCOR 装着時に僧帽弁を形成した 1 例では装着後の僧帽弁逆流が軽度であり、左心不全症状は呈していない。僧帽弁を形成しなかった 6 例の装着前僧帽弁逆流は全例で 2 度相当と評価しており、装着後の重症化を予想するのは困難であった。【結論】左心室補助を行った症例において、原病の進行などの理由で右心不全が起こり得るだけでなく、左心不全も起こり得る。